

⑦⑤ 孫の成長を悦ぶ

孫の成長を悦ぶ
喰さかり育盛りの
雑煮かな

岩代 壮山

御題

仰き見る御代の

米子 聴水

光や恵方山

(中段)

万才やかた身広うに舞諷ふ

桂 秋

幾千とせゆるかぬ山やはつ日の出

其 静

蓬萊にむかうて広きこゝろ哉

藤 園

初日かけ千代経し松を昇けり

吐 月

しらむ空柳に見えて啼雀

厩 竹

初とりや燈明あふつ白のうへ

北 叟

門松やいつくの山の千代のたね

公 美

うつむけは踏て居るなり路の臺

無 腸

柳から春へさそうやものゝ色

支 仙

丙申 とし

⑦⑥ 新年摺

(上段)

紙魚による虫害及び擦れにより
判読が出来ないため省略

はつ明り海山出来て人の声

須磨

露 城

天の戸を開きて来ることしかな

多 米

箒目の又あたらしき二日かな

梅 應

いかめしき構となりぬ門かさり

霽 甫

海山に届て広しはつ日かけ

吟 谷

着衣はしめ分に過るとおもひけり

綾 子

ちる花や里見下して小半道

壺 月

春の雪遊ふ種にもなりに覺

近江

九 峰

うくひすや我花笠は旅笠

伊勢

流 芳

さしかへし炉縁に梅のしつくかな

紀伊

梅 有

門松やさゝくる御代のはしら建

紀伊

松 年

あさ風は寒しされとも梅日和

吟 圃

門々やひらめく旗も年の花

琴 涯

年愛て松も静やはつ日の出

幡磨

銚 花

綾の袖帯にはさみて小松引

笠 雅

雪のいろ若葉のいろに古ひけり

竹 舞

島山の雪かくとしの朝日かな

阿波

士 徳

屠蘇の酔人にも愛たかられけり

南 薫

餅花やほかけ墨画の金屏風

如 風

雪もふむ心は老す屠蘇きけん

菖 淡

ほうらいや先つき初る扇挟

雲 雪

つむゆきにまかし今年は明に覺

藁 眈

はつ曆嫁とる家へかられけり

蒼 波

雪つむや果のはて迄君か春

杏 洲

我も人も心のことし迎ふ年

半 醉